

25-39

特67  
840

435

# 飼兔法

中村和三郎著

全

好耕園藏版

064812-000-4

特67-840

飼兔法

中村 和三郎 / 著

M22

CCD-0264





No. 18973 / 22

飼兔法緒言

方今肉食盛ニ行レ需用大ニ増加シ供給不足ヲ告ガ肉牛ノ如キ年一



至レリ此ニ於テカ牧場ヲ設ケ牛豚ヲ飼養シ或ハ家  
禽場ヲ創立シテ需用ニ應セントスルモノアリ牛豚家禽固ヨリ可ナ  
雖モ飼養容易ニシテ生長速ニ味美ニシテ滋養多ク其毛皮ハ以  
テ諸種ノ裝飾ニ供スルヲ得ラル、家兔ヲ飼フモノ未タ多カラサル  
余ノ所ニ遺憶トスル處ナリ余茲ニ感アリ佛國種ヲ始メ諸種ノ家  
兔ヲ飼養シ其繁殖シテ以テ毎戸コレヲ飼養スル彼ノ家鶏ノ如クナ  
ラシメント欲スル久シ時機ノ然ラシムル處カ各地同感ノ士續々輩  
出シ其飼養法ヲ問フモノ頗ル多シ依テ聊カ余カ知レル處ヲ記シ世  
ニ公ニシ以テ應答ニ代フ

明治二十二年七月

好耕園主人中村和三郎識



目次

第一章 種類

第二章 蕃殖ノ割合及生壽

第三章 飼養法

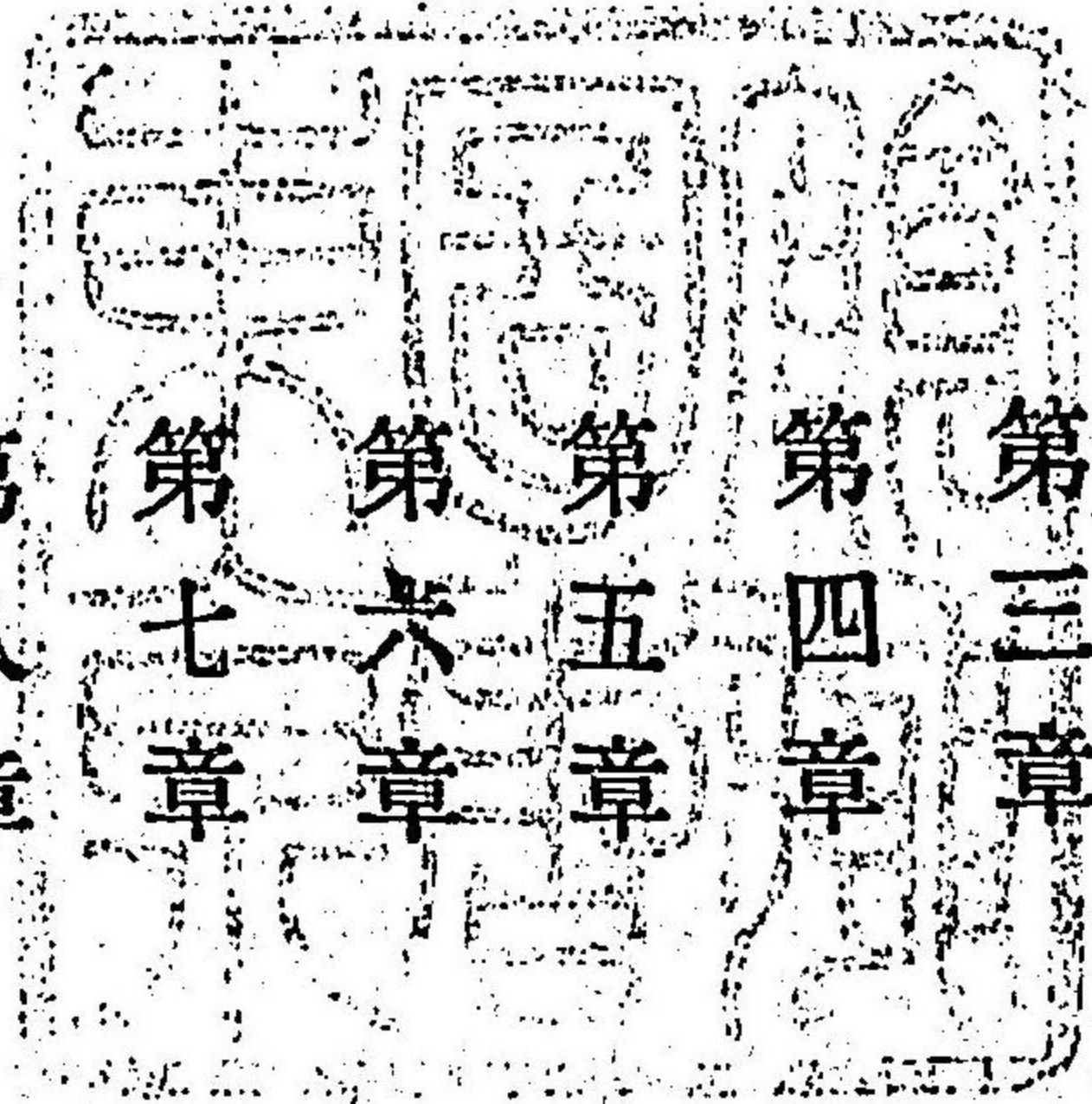
第四章 配偶及交尾

第五章 分娩及育仔ノ注意

第六章 疾病及治療法

第七章 割剖調理及罐詰法

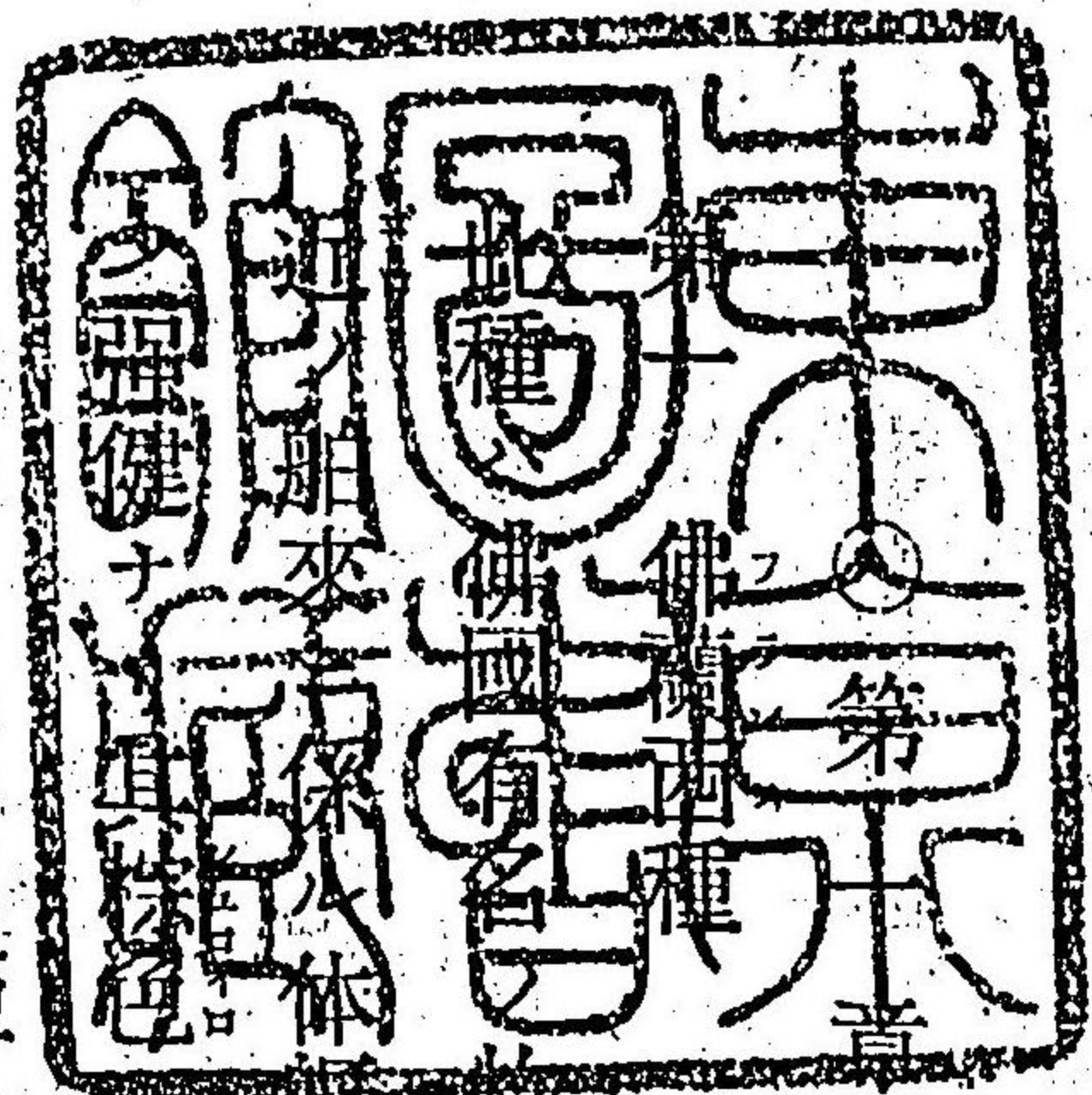
第八章 肉ノ滋養成分



飼兎法

遠江 中村和三郎著

種類



牧畜家が肉用ヲ主トシテ改良シタルモノニテ輓  
佛蘭西種 佛國有名ノ種也  
強健ナリ 且最蕃殖シ易ク  
肥大其量壹貫六七百目ニ達シ且最蕃殖シ易ク  
ノモノ最美味ニ白色又ハ白色ニ黒點又ハ棕色點  
アルモノユレニ亞キ黑色ノモノモ亦甚佳味ナリトス其毛皮ハ諸ノ  
裝飾ニ供スベク織物ニ用ユベキモノニテ白色種ノ如キハ最豐美ナ

第二 亞米利加種

俗ニ「メリケン」ト云フ

此種ハ佛國種ニ亞キ肉用織物用ヲ兼テ有益ノモノナリ体量壹貫以上ニ達ス

第三 無垢

此種ハ柔軟ノ長キ毛ヲ生シ毛皮ハ貴ケレモ其肉ハ至テ少シ

第四 支那種

俗ニ「南京兔」ト云フ

此種ハ所謂熟兔ナルモノニシテ躰小ニ耳短シ然レモ甚ダ強健ニシテ飼養至テ易ク且雛兒ヲ育ツルコト巧ナレバ換親トスルニ適ス

○第二章

蕃殖ノ割合及生壽

兎ハ其蕃殖ノ速ナル實ニ驚クベキモノニシテ種類ニヨリ差アレモ先大概ハ五ヶ月ニシテ仔ヲ生シ一回七頭乃至十六七頭ヲ出ス而シテ一年六回乃至十回分娩五年ニシテ止ミ十二年内外生存スルモノナリ

今試ミニ蕃殖ノ數ヲ算スレバ一番ノ兎一月一日ニ交尾シ一回七頭ツ、十回分娩ノ割合ヲ以テ一ケ年ノ末ニ至レバ一千七百頭余ニ及ブベシ但シ牝牡ハ六四ノ割合ナリ

○第三章

飼養法

飼養法ニニアリ一ハ自家屠殺用ノタメニ十數頭ヲ飼養シ一ハ營利ノ爲メニ數百頭乃至數千頭ヲ飼養スルモノニシテ甲乙自ラ其方法ヲ異ニセザルベカラズ  
十數頭ヲ飼養スルニハ第二圖ノ如キ函ニ飼フベク多數ヲ飼養スルニハ第一圖ノ如ク放牧スルヲ宜シトス

第壹圖

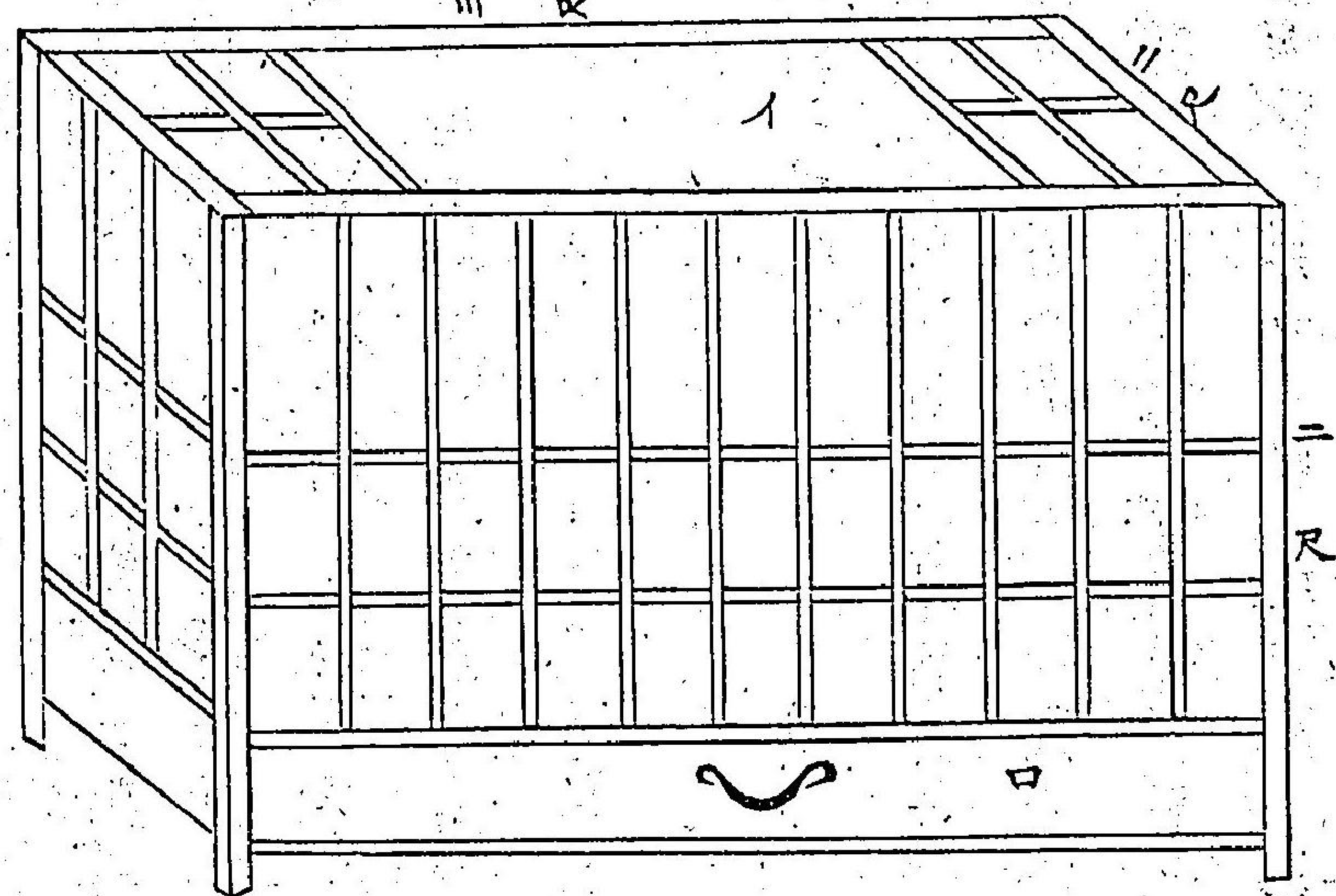
(イ)ハ竹ノ柵

(ロ) 放飼場  
 (ヘ) 屋根ヲ付ケタル寢巢  
 (ハ) 中仕切  
 圖ノ如ク數區ニ劃スルモノハ  
 同時ニ生レタルモノヲ一區ニ  
 放ツヲ要スルヲ以テナリ  
 (ハ)ノ中仕切ニハ戸ヲ付シイナ  
 ル放飼場ヲ掃除スルニ當リ(ロ)  
 ノ方ヘ移シイノ方ヲ掃除シ牧  
 草ノ成長スルヲ俟テ更ニ又(イ)  
 ニ移ス交互此ノ如クスベシ

イ	イ	イ	イ	イ	イ
ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
イ	イ	イ	イ	イ	イ
ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ

第 二 圖

但一番ヲ  
 飼フベキ  
 モノヲ示  
 ス



上部イヲ明蓋ヲ付シ食飼ニ便ス  
 下部(ロ)ヲ引出シ糞ヲ取り又ハ  
 掃除ニ便ス引出ノ下ハ細竹ニテ籠  
 トナシ尿ノ漏ルノ様ニスベシ  
 裏面ハハメニス其一部分ニ戸ヲ  
 付シ兎出入ニ便スベシ但シ横面ニ  
 テモ前面ニテモ函櫃付ノ便宜ヲ見  
 計ヒ適ニコレヲ付スベシ  
 窓明ハ五分以下トシ丸竹ヲ用ユベ  
 シ木ニテハ兎コレヲ咀ミ折ルコト  
 リ鉄網ナレバ更ニヨロシ

飼養函ニテ飼フニハ常ニ軟柔ナル野草又ハ野菜類ノ切屑等ヲ與ヘ  
又時々雪花菜キトラズヲ與フベシ雪花菜ヲ與フルニハ野草又ハ野菜ノ屑等  
ヲ細ニ刻ミテ混シ水ヲ加ヘテ能ク子リ與フレバ大ニ喜ンデ食ス  
放牧スルニモ亦前記ノ如キモノヲ與ヘ牧場ニハ「マーシベントグ  
ラス」「チモナー、グラス」「イタリアンライ、グラス」「イエルロー、クロ  
バー」「アルシアイ、クロバー」「ホワイト、クロバー」等ノ如キ牧草ヲ下  
種シテ飼養スベシ

冬期ハ根菜類ノ外山野ノ青草等ヲキナ以テ夏秋ノ候ヨリ粟黍玉蜀  
黍等ノ藁ヲ乾シ貯ヘ置キコレヲ與ヘ（乾草ハ二三寸程ニ刻ミテ温湯ヲ澁  
キ糠ヲ和シテ與フルヲ宜シトス）  
又大根ノ葉及根胡蘿蔔ノ根及葉等モ與ヘ且麥ヲ萌シテ與フルハ更  
ニ可ナリ其麥ヲ萌スノ法ハ麥ヲ莖ニ包ミ土中ニ埋ムルカ又ハ四斗

入ノ桶ニ麥春カサ  
ルモノ壹斗ヲ入レ水ヲ注キテ浸ス一晝夜乃至四晝夜  
此間時々攪拌カキマワシシテ水ヲ清マシ而シテ后一晝夜ハ水ヲ切リテ萌セバ  
芽出ズルナリ其二分程ニ長セシキコレヲ與フベシ  
凡兎ハ山野ニ生ズル植物ノ葉ハ大概コレヲ食スルモノニシテ其食  
セサルモノハ毒草ドクソウナレバ后決シテコレヲ與フベカラズ又兎ノ最モ  
好ンデ食スル野草ヲ舉グレバ芹セリ、薊アサミ、葛ノ葉、オーバユ等ニシテ其外  
馬鈴薯ジャガイモ及葉莖大豆ノ葉、甘薯サツマイモノ葉等モ喜ンデ食ス  
函飼ニ於ケル敷藁ハ少クモ一周間ニ一回ハコレヲ交換シ灰又ハ細  
土ヲ散布マキシテ藁ヲ二三寸ニ切リテ其上ニ敷クベシ然ルキハ惡臭ワレクサキヲ  
其灰又ハ細土ニ吸收スイトルスルヲ以テ兎ノ衛生上ニ大効アルノミナラズ  
コレヲ肥料ニ用ヒテ効驗著大ナリ

○第四章

配偶及交尾

牝牡ノ割合ハ牡一頭ニ牝七八頭乃至十一二頭トス

交尾<sup>コウビ</sup>ヲナサシムルニハ牝<sup>メウサキ</sup>兔ノ陰門<sup>インボンムラサキ</sup>紫色ヲ呈スルヲ俟テ唾<sup>ツバ</sup>ヲ塗リテ

牡<sup>オウサキ</sup>兔ニ接セシムレバ忽チ交尾ス其度數ハ三四回ニテ足レリ又稀ニ

ハ牝兔ノ交尾ヲ嫌ヒ尾ヲ肛門<sup>コウモン</sup>ノ間ニ箱スルモノアリ此ノ如キモノ

ニハ尾ノ先ヲ糸ニテ結び尾ヲ引上ル様ニシ其糸端ヲ頭ノ處ニテ手

ニテ持テ交尾セシムベシ

分娩<sup>ハツマ</sup>後交尾セシムルニハ分娩ヨリ二日ヲ隔テ、一週間以内ニ於テ

スベシ若一週間ヲ過クルキハ情去リテ更ニ發情スルヲ俟ツニ非レ

バ交尾セシムルヲ不能ニ至ルナリ

放飼スルモノヲ交尾セシムルニハ可成多數同時ニ於テスベシ何ト

ナレバ同時ニ産シタルモノハ一所ニ放ツモ相争フヲナキモ分娩ノ  
期相距リ生長ノ差アルモノヲ一所ニ置クキハ其稚弱ナルモノ傷害  
ヲ蒙リ或ハコレガ爲メ終ニ斃ル、コアレバナリ

○第五章

分娩及育仔ノ注意

交尾<sup>ハツミ</sup>後孕<sup>ハラム</sup>ヲ知ルニハ交尾ヨリ六七日ヲ過キ再ヒ交尾ヲ試ムベシ其

コレヲ厭<sup>イト</sup>ヒ避<sup>サ</sup>クルモノハ即孕ニナルモノナリ又十四五日ヲ過キタ

ルキハ下腹部<sup>シタハラ</sup>ヲ手ニテ試ムベシ能ク手ニ觸<sup>サツ</sup>ル、モノナリ而シテ交尾

后大概三十二日ニシテ分娩スルヲ常トスレモ稀ニハ三十三四日ノ

モノアリ既ニ分娩ノ期至レバ親兔ハ腹ナル毛ヲ拔キ糞ヲ集メテ巢

ヲ造リ即日若クハ其翌日仔ヲ産ス而シテ稀ニハ其仔ヲ育ツルヲ

嫌<sup>チ</sup>ヒ乳汁<sup>チ</sup>ヲ與ヘサルモノアリ此ノ如キ兔アラバ他ノ能ク乳ヲ與フ



ル處ノ親兔ト交換スベシコレヲ交換スルニハ必ズ新親ノ尿ヲ仔ノ  
 体ニ塗り付クベシ此ノ如クセザレバ乳ヲ與ヘサルコアリ  
 又其自ラ産ミタル雛仔ヲ咬ミ殺スモノアリ此場合ニハ槓香ヲ雛仔  
 ノ体<sup>頭面ヲ</sup>ニ散布スベシ  
 仔ノ生ル、ヤ其初ハ皆盲目ニテ一周日乃至二周日間ニシテ目ヲ開  
 クコレヨリ豆腐糟ヲ水ニテ和ヲカク煉リ又ハ柔ヲカキ草等ヲ與フ  
 ベシ而シテ二十五六日ヲ限り離乳セシメ別函ニ移シ又ハ放飼場ニ  
 出スベシ

○第六章 疾病及治療法

兎ノ病多シト雖<sup>モ</sup>就中其重ナル病名及治療法左ノ如シ

○下痢 くたり

其輕症ナル<sup>カレキ</sup>ハ樫ノ葉ヲ與フルコ半日乃至二日間ニシテ癒ユ  
 重症ニ至ラバ葛根ヲ煎服<sup>計量ハ適宜見</sup>セシムベシ又燒明礬<sup>ヤキミヤクセン</sup>ヲ與フ  
 ルモ可ナリ而シテ此病ハ傳染スルモノナレバ病兎ハ別函ニ移  
 シ清潔ニスベシ

○眼病 めのやまゐ

清水ヲ以テ屢バ洗フベシ若シ尙癒ヘサレバ龍腦<sup>リウノウ</sup>ヲ水ニ溶解シ  
 コレヲ以テ洗フベシ

○鼻病 むののやまゐ

鮑ノ貝殼<sup>アワビ</sup>ヲ燒キ粉末トナシ菜種油<sup>ナクナシヤブ</sup>又ハ「グリスリン」ニテ煉リ  
 塗抹スベシ

○涎ノ病 よたれのやまゐ

涎ノ病ハ兎ニハ常ニ多キモノニテ飼養者ノ最注意スベキモノ  
ナリ此病ニ罹リタラバ一夜乃至二夜モ夜間屋外ニテ露ニ晒セ  
バ癒ユルモノナリ又燒明礬四分程ヲ水三十滴ニ溶カシ口鼻ニ  
塗り其残余ヲ飲マシルモ大ニ効アリ

○腹熱病 はらのねつ

此病ニ罹リタルキハ腹膨レテ他ハ瘡スルモノナリ宜シク青草  
ノ水分多キモノヲ撰ンデ與フベシ(水ヲ飲マシムルモ宜シ)又  
望江南決明等ヲ與フルモ効アリ

凡テ兎ハ其病ノ初發ニ當リ夜露ニアワシムレバ大概ハ癒ユルモノ  
ナリ又一ヶ月ニ一二回ツ、夜露ニアワシムレバ疾病ニ罹ルコト少シ

○第七章 割割調理及罐詰法

兎ヲ屠殺シテ食用ニ供セントセバ先ツ一周間モ乾草ヲ與ヘ而シテ  
后更ニ麥類燕麥小麥等玉蜀黍ヲ與ヘ二日間程飼養シテ屠ルベシ然ル  
キハ其肉最美ナル風味ヲ生スルモノナリ  
屠殺スルニハ先前肢ノ後方ニ左手ヲ入レ肺及心臟ヲ絞メ右ノ手ニ  
テ后肢ヲ束テ後ニ引ク氣味ニテ暫クスレバ死スルモノナリ而シテ  
後皮ヲ剥キ肉ヲ取リテ食用トス  
皮ハ肉付ノ方ヲ表ニ出シ板ノ上ニ置キ四脚ニ釘ヲ打テ次ニ頭尾ニ  
打テ方形トナシ明礬ト卵ノ蛋白トヲ混和シタルモノヲ塗抹シテ日  
光ニ晒シ後函ニ詰メ樟腦ヲ散布シテ貯フベシ  
肉ハ屠殺ノ后數時間乃至一日ヲ置キ食スレハ香味ヲ増シ咀ムコト易  
ク且消化シ易シ其食法ハ猶凡テ牛豚ニ於ケルガ如シ又コレヲ罐詰

トスルニハ生肉ヲ十二三匁位ノ大サニ切り一斤入ノ罐ニ詰メ適宜食鹽水ヲ入レ「ハンダ」ニテ密閉シ熱湯ニ投シ猛火ヲ以テ凡三十分間モ沸騰セシメ而シテ引上ケ放冷セシムルナリ

○第八章 肉ノ滋養成分

兎ハ性快速ニシテ常ニ奔走シ其体中ノ炭素ヲ消耗シ脂肪肉甚ダ稀ニシテ食物中最滋養多キ小獸ナリ其分析表左ノ如シ

水	七三、一七
蛋白質	二〇、九一
脂肪	三、一五
亞兒簡保兒	一、五四
エキス及鹽	一、二三
エキス	一、二三

合計

壹〇〇、〇〇

牛肉其他現今我國ニ於テ多ク食用ニ供セララル、諸肉性分ノ比較ヲ舉レバ左ノ如シ

水	含窒素物	脂肪	不含窒素物	鹽
牡牛	六八、貳〇	壹九、六參	壹壹、〇貳	壹、壹五
牝牛	七參、七〇	貳〇、參五	四、七五	壹、貳〇
犢	七五、五壹	壹九、四七	四、壹壹	〇、九壹
羊	六壹、八八	壹五、九五	貳壹、〇八	壹、〇九
豕	五九、七九	壹七、貳參	貳貳、〇七	〇、九壹
鹿	七五、七六	壹九、七七	壹、九貳	壹、壹參
雄鷄	七六、貳貳	壹九、七貳	壹、四貳	壹、貳七

雌鷄 七六〇參 貳壹參貳 壹壹五 壹四九 壹〇壹  
 雌兔 七四壹六 貳參參四 壹壹參 〇壹九 壹壹八

飼兔法 畢

明治廿二年八月十五日印刷  
 同年同月廿十日出版

定價金拾八錢

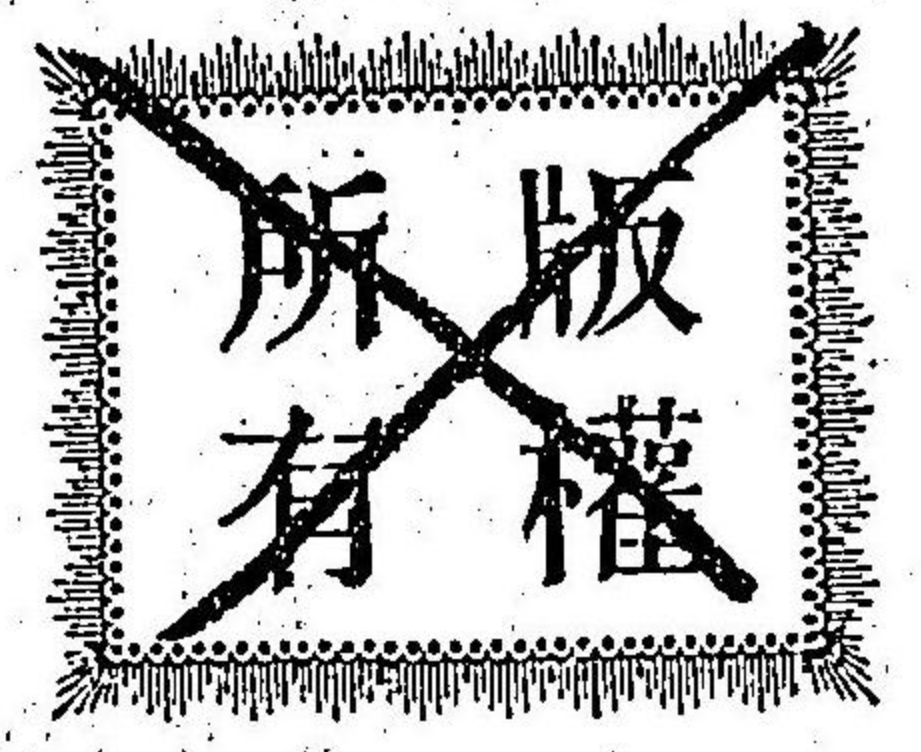
著作者  
兼發行者

靜岡縣平民

中村和三郎



靜岡縣周智郡氣多村氣田  
五十六番地寄留



印刷者

靜岡縣士族

多喜源助

全縣全郡犬居村堀之内  
三十三番地同居

静岡縣周智郡氣多村

發行所

好 耕 園

同縣敷知郡濱松町

印刷所

開 明 堂

同縣周智郡森町

發賣所

加 藤 信 吉

賣 捌 所

東京麻布區麻布本村町

學農社雜誌局

東京々橋區南傳馬町二丁目

有 隣 堂

東京々橋區八官町一番地

牧 畜 雜 誌 社

山梨縣甲府常磐町

內 藤 傳 右 工 門

静岡縣静岡市江川町

廣 瀨 市 藏

静岡縣静岡市吳服町

三 浦 定 吉

静岡縣掛川町

松 屋 好 五 郎

静岡縣濱松町紺屋町

谷 嶋 屋 源 三 郎

愛知縣名古屋本町三丁目

川瀬代助

岐阜縣岐阜米屋町

三浦源助

福嶋縣福嶋町五丁目

上野屋彦太郎

大坂本町四丁目

岡嶋眞七

越後三條

樋口小左工門

仙臺國分町

伊勢安右工門

### 種兔販賣廣告

一佛國種 各種

右本園ニ於テ飼養致候ニ付御望ミノ方ハ切手  
貳錢封入申込アラバ詳細價格等可申進候也  
但シ本文ノ外各種南京等モ御讓與可申ニ付  
御望ノ方ハ御申越アレ

静岡縣周智郡

好耕園牧畜部

## 農家諸士ニ告グ

本園ハ曾テ全國農家ノ團結ヲ計リ其機關トシテ農談ト稱スル雜誌ヲ發行シ各府縣下同盟員アラザルノ地ナキニ至レリ苟モ農事ニ從事セラル、ノ士ハ同盟セザルベカラサルノ良法ナリ諸士ヨ速ニ此同盟ニ加ハリ以テ與ニ俱ニ農事ノ改良上進ヲ謀ラレンコトヲ○郵券貳錢ニテ規則ヲ呈スベク切手五錢ヲ投セバ農談見本一部ヲ呈ス但二十二年七月農談第五号發行

好耕園種苗部